

海外研修報告書

研修医 2 年 田中 賀大

私は 2015 年 6 月の 1 か月間、カナダのトロントにある The Hospital for Sick Children (SickKids) にて研修させて頂きました。小児科学教授の尾内一信先生が SickKids の臨床薬理学部門教授の伊藤信也先生と以前から御親交があることから臨床薬理学部門にて研修させて頂くことになりました。

まず研修病院の SickKids に関してですが、1875 年に 11 部屋の家を借りてオープンしました。その後何度かの移転があり、現在では 300 床を超える世界三大小児病院の一つに数えられる有名病院です。正面玄関を抜けると atrium と呼ばれる吹き抜け構造であり、天井はガラス張り、大きなミッキー像やフードコートなどがあります。ほとんどの職員は白衣ではなく私服なので一見すると 1 階は病院とは思えないような景色が広がっていました。また、病棟の規模であったり施設の違いにはその後何度も驚かされました。2014 年には the Peter Gilgan Centre for Research and Learning が新設されました。次に SickKids のあるトロントですが、トロントはカナダ最大の都市であり、多民族が暮らす街として有名です。初めての海外渡航ではありましたが、治安も良く食べ物も日本食以外は美味しいものばかりで大きなトラブルなく過ごすことが出来ました。トロントの街や SickKids で出会ったどの人々も私のつたない英語に真摯に耳を傾けて、嫌な顔もせずもう一度ゆっくり話してくれました。そのお蔭で萎縮することなく英語でのコミュニケーションに挑戦できたと思います。

私は臨床薬理学部門 で temporary observer として研修させて頂きました。短期見学者であるため医療行為は行うことができませんが、ラウンド・カンファレンス・外来などに参加させて頂きました。臨床薬理学部門の業務は、他科や他施設からのコンサルテーションに見解・アドバイスを提示して対応することです。コンサルテーション内容は薬物の副作用や血中濃度に関することなど、薬剤全般にわたります。また臨床薬理学部門内にはマザールスク (Motherisk) 部門があります。妊娠中あるいは授乳中の母親から薬剤に関する電話相談を受けるもので、カナダ全土から 1 日 200 件以上の問い合わせが寄せられます。電話相談に応じるカウンセラーは医師だけでなく生物学者や大学院生など様々な職種の人間が担っております。電話相談で解決しきれなかった症例は臨床薬理学教室の医師へコンサルテーションされ、それでも解決しなかった症例や不安感の強い症例が毎週金曜日の MOTHERISK 外来を受診します。私が見学させて頂いた症例では抗うつ薬を内服されている妊婦や母親の方が多くいらっしゃいました。診療の前後で、薬剤に関する資料を頂いたり、質問に応じて頂いたり担当の先生方は丁寧に指導して下さいました。今後の医師生活においても知っておかなければならないことを沢山学ばせて頂きました。

また、カナダ薬理学会の年次総会やいくつかの学会に参加させていただく機会にも恵ま

れました。はじめは配られる資料やパワーポイントという字幕があり、また普段と比べればゆっくりとした英語であることからリスニングの勉強という面の強い参加でした。しかし、様々な研究に携わる沢山の医師や医学生の発表を聞き、その熱意にふれることで久しく眠っていた知的好奇心のようなものが刺激されました。また、**Research fellow** として **SickKids** に来られていた横浜市立大学の竹内正宣先生や東京薬科大学の田中祥子先生からご自身の研究についてのお話をしていただく機会もあり、非常に勉強になりました。今まで自身の研修の場といえばほとんどが臨床でしたが、自分もいつかこういった形で何か医学の発展に少しでも力になることができれば、と今まであまり考えたこともなかった思いも生まれました。

刺激を受けたといえ、同じく **SickKids** での研修に来ていた信州大学の福田有くん、順天堂大学の進藤淳彦くんという 2 人の医学生との出会いでした。ときに将来を、ときに各々の研修内容を語り合ったりしました。熱意にあふれる 2 人の医学生との出会いが、私のモチベーションが下がることなく 1 か月を有意義に過ごす事ができたと一因と思います。

1 か月という振り返れば短い期間の研修ではありましたが、本当にたくさんのことを知ることが出来ました。この貴重な体験やお世話になった皆様のご厚意を無駄にしないようこれからも励んでいきたいと思います。

今回、**SickKids** での研修を始めるにあたって、様々な場面でご尽力くださった小児科学教授尾内一信先生には大変感謝しております。また、研修を受け入れてくださった伊藤信也先生には大変御世話になり御礼を申し上げます。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった、レジデント教育委員長の中田昌男先生、プログラムディレクターの長谷川徹先生、園尾博司病院長先生、福永仁夫学長先生、川崎誠治理事長先生をはじめとする川崎医科大学附属病院関係者の皆様には大変感謝しております。有難うございました。



大変お世話になった伊藤先生



シックキッズ前にて 進藤くん福田くんと



新しく出来たリサーチ棟



カンファレンス風景